

INFO

新かがわ中小企業応援ファンド等事業募集中

(公財)かがわ産業支援財団では、2017年度に造成した「新かがわ中小企業応援ファンド」などを活用して、県内中小企業者などが行う研究開発や販路開拓、生産性向上、人材育成などの取り組みを支援しています。

募集内容

支援メニュー	助成率・限度額
新分野等チャレンジ支援事業	3分の2以内・100万円
競争力強化研究開発支援事業	3分の2以内・500万円
ものづくり生産性向上・スキルアップ支援事業	3分の2以内・200万円
創業ベンチャー支援事業	3分の2以内・200万円
農商工連携支援事業	3分の2以内・300万円
withコロナ対応支援事業	商品・技術開発枠 3分の2以内・80万円 販路開拓枠 35万円

募集期間 2021年1月26日(火)まで

支援事例



【株岩佐佛喜堂】
交通事故を予防するためのお香の
開発と効果分析



【株伊吹島プロジェクト】
地域ブランドをプロデュースし地場産業に
イノベーションを興す「伊吹島プロジェクト」

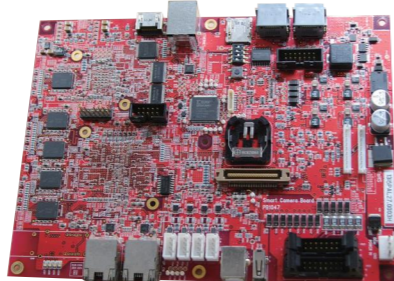
支援メニューの内容、申請方法、関係書類など、詳しくは

令和3年度新かがわ中小企業応援ファンド等事業 [検索](#)

(問い合わせ先)

(公財)かがわ産業支援財団 ファンド事業推進課

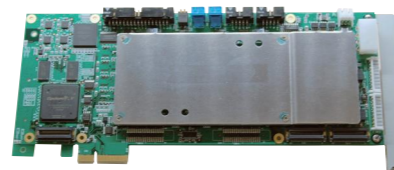
☎ 087-868-9903



人認識画像処理基板



画像侵入監視ユニット



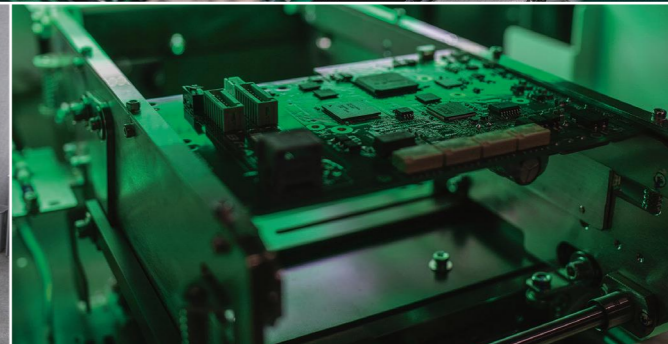
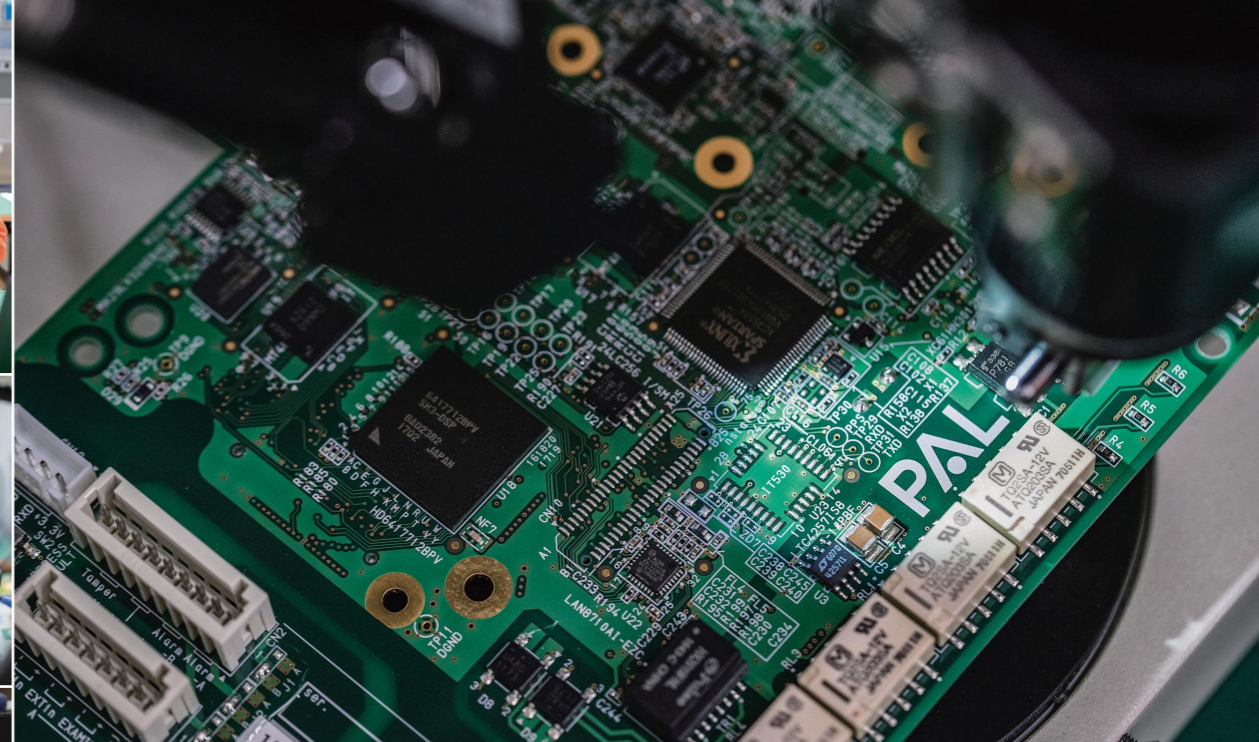
PCI Express画像処理基板



巻き込み事故警告システム



藪内社長(左)と桐島さん



り、コロナ禍で一時中断しているものの、海外展開には依然意欲的です。
AIでさらに高付加価値に
セキュリティで最も避けたいのは、誤って検知する場合と検知されない場合です。ただ感度が高いだけでは落ち葉や動物なども検知してしまい混乱を招きます。しかし、マイクロ波センサーと同社の既存技術を活用した画像センシング技術を組み合わせ「人が動いている時」のみ検知する精度を実現。通常の防犯カメラは「監視員がモニターで確認し、何か起きたら後で巻き戻してチェックする」ことが多いのに対し、同社のセンサーは「人間の目視に頼らずシステムが怪しい動きをリアルタイムで探知し、素早い初動対応で事件・事故の発生を未然に防ぐ」ことができます。
他にも社内提案や顧客の「こんなことをやりたい」という相談から、さまざまな製品を生み出してきた同社。数年前からは、マイクロ波センサーと画像センシングにAIを組み合わせたことで、より付加価値を高めようとする動きも進んでいます。既に製品化されているのは、大型車の左折時の「巻き込み事故警告システム」。サイドミラー近くに設置したカメラで、巻き込みの可能性がある人や自転車などを

高度なセキュリティ環境で
強みを発揮するセンサー

「技術力+人間力」で
世界のニッチトップを目指す



ハイセキュリティ環境を堅固に守る高精度なセンシング(計測)技術。AIを活用して高機能化・高付加価値化を進め、ニッチ(小さな市場)トップを目指して挑戦を続ける香川のものづくり企業を紹介します。

株式会社パル技研

住所 高松市林町2217番地2
創業 1992年
☎087-864-3388
<https://www.palgiken.co.jp/>



「私たちのコンセプトは『グローバル・ニッチトップ』、小さい市場で世界一を目指すことです」と語るのは、代表取締役の藪内廣之さん。当初はオーダーメイドの開発設計中心でしたが「世の中にもないものをつくらう!」と15年ほど前から自社製品開発に注力。ちょうど産学官共同研究が盛んな時期だったこともあり、大学の保有技術を活用して共同研究を行い、さまざまな可能性を探った結果「マイクロ波センサー」が誕生しました。いわば「電波を使って物体を感知する装置」で、屋外でも天

候などの環境変化の影響を受けず安定して機能するところが強みです。
開発中から「港のコンテナクレーンにつけたい」などの引き合いも来ていましたが、現在特にニーズが高いのは、セキュリティ業界。それも発電所やLNG(液化天然ガス)備蓄基地、自衛隊基地など、365日24時間体制で精度の高い監視が必要なハイセキュリティ環境に導入されることが多く、国内の電力会社のほとんどに導入実績があるそうです。「普通に生活していて目にすることはほとんどないでしょうが、一部高速道路にも使われています」と藪内さん。国内はもちろん北米やヨーロッパへの販売も強化してお

検知し警告する装置で、AIによって検知精度をより人間の判断に近づけることができます。
技術部ハードウェア開発係長の桐島広文さんは、こうした製品開発に携わってきた技術者の一人。「設計通りに動くとは限らないのが技術の世界。社内では大丈夫だったのに、現地だとエラーが出ることも…。何が悪いのか試行錯誤で解決していくのが、苦しくもあり、やりがいでもありますね。ものづくりの流れに一貫して携われるのも魅力です」。同社はエンジニアが積極的に現地へ足を運ぶ方針で「社内にいると狭くなるがちな視野を、広げる効果もあると思いますよ」と語ります。
「技術力が高いだけでは、選んでもらえる企業になりえない。人間的魅力を備えたエンジニアを育てたいんです」という藪内さん、月2回の勉強会をはじめ人材育成にも力を入れてきました。社名である「PAL」は「仲間」という意味で、人と人の関係を大切にしている同社の信念を象徴しています。藪内さんは「社会に貢献し、人に愛される、そういう集団でありたいですね」と思いを込めて語ってくれました。

問い合わせ先
(公財)かがわ産業支援財団 取引支援課
☎087-868-9904